

平成 31 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 19	公益目的事業 19
主査名	井原健雄 香川大学名誉教授	
研究テーマ	“住民ファースト”を基軸とした「四国地域公共交通計画」の策定に向けて —四国から始まる地域公共交通計画の新しい姿—※※	

研究の目的：

地方都市における交通問題の実証的な調査研究を行うとともに、とりわけ政策志向の観点から「地方自治体」を含む広義の「運輸行政」のあり方として、その意義と役割を検証することにより、「住民の」「住民による」「住民のための」地域公共交通の実現を目指し、有意な知見の導出とその活用を図ろうとすることにある。とくに本研究プロジェクトでは、多極分散型の土地利用が強く認められる「四国」という地域を対象として、その実態把握に努めるとともに、より詳細な実証分析を試みるものである。

研究の経過（4月～3月）：

- ・8/28（水）10：30～12：10 に、サンポートホール高松（65 会議室）で本研究プロジェクトの有志メンバーにより、プロジェクトを進める上での事前の打合せを行った。そこでは、昨年度の研究プロジェクトの振り返りと残された研究課題等についての意見交換が行われた。同日 13：30～17：00 に他のメンバーも加わり、今年度最初の研究会が開催され、今年度の研究プロジェクトの方向付けの議論が交わされたことにより、メンバーの相互理解の深度化が図られた。
- ・本研究プロジェクトが研究対象とする「四国」地域では、地域公共交通にかかわる新たな展開があった。その具体として、①JR 四国と四国 4 県の自治体や経済関係者らが鉄道網維持に向けた方策を協議する会で中間報告がなされたこと、②徳島県生活交通協議会が「次世代地域公共交通ビジョン」を取り纏めたことである。そこで、プロジェクトメンバー有志が、2/15（土）に JR 四国へ赴き、また、3/3（火）には徳島県に赴いて、それぞれヒアリング調査を行った。
- ・3/8（日）13：30～16：50 に、サンポートホール高松（67 会議室）で第 2 回目の研究会を開催した。当初は午前と午後の終日実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、午後からの開催かつ可能な限り内容を厳選して開催した。そこで、ヒアリング調査結果の報告がなされた後、執筆の目次案が提示され、「最終報告書」作成の方向性に関する議論を交わすとともに、執筆担当を検討した。

研究の成果（自己評価含む）：

本研究では、①JR 四国が問題提起したように、個別交通モードの枠内に限定した将来計画では各モードの特性を活かした効率的なサービスを提供することができず、その結果、公共交通ネットワーク全体が衰退し、四国の活力低下が懸念されるという危機意識が関係主体で十分に共有されていないこと、②交通サービスは狭域から広域にわたる人の移動をシームレスに支えるものであり、自治体や事業者別の計画を繋ぎ合わせるだけでは「四国地域公共交通計画」にならないこと、などが指摘され、その策定のための基本的な考え方が提示された。

今後の課題：

「四国地域公共交通計画」が、真に地域住民の暮らしと社会経済活動を支える最善の方法として、住民や関係主体に支持される計画となるよう、具備すべき要件を再吟味するとともに、全員が我がこととして主体的かつ協働して計画策定に携わり、その実効性を担保するためのしくみを整備する方法について、さらなる検討を行う必要がある。